

- 1 審議会名 武石地域協議会
- 2 日 時 平成21年5月25日 午後7時00分から午後9時15分まで
- 3 会 場 武石公民館 第一会議室
- 4 出席者 新井繁雄委員、井出守雄委員、伊藤隆子委員、上野正司委員、柿島祐子委員、木下文雄委員、木下幸光委員、清住章雄委員、小山洋江委員、桜井敏昭委員、佐藤栄作委員、城下ゆかり委員、高田忍委員、滝沢由美子委員、中嶋和夫委員、橋詰真由美委員、松井幸夫委員、依田せつ子委員(欠席2名)
- 5 市側出席者 宮下センター長、広川地域振興課長、山口市民生活課長、犂山産業観光課長、桜井建設課長、近藤健康福祉課長、伊藤教育事務所長、児玉地域政策係長、掛川主任
- 6 その他出席者 山田丸子警察署次長、田中武石駐在所長
- 7 公開・非公開等の別 公開
- 8 傍聴者 0人 記者 1人
- 9 会議概要作成年月日 21年6月4日 作成部局課名 武石地域自治センター 地域振興課

協 議 事 項 等

1 開会(広川課長)

2 会長あいさつ

(桜井会長)本日は、前回の協議会で皆さんから出していただいた意見を事務局でまとめてもらったので、それぞれの問題について皆さんが納得するよう協議を進めていきたいと思う。今回終わらなければ、次回も引き続き協議していきたい。特に武石の重要な課題である持ち寄り基金の使い道について、市議から10年計画を今年中に出してもらえないかという要望が私のほうにあった。去年の協議会で出していただいた意見を中心として方向性を出していきたいと思っているので、活発に意見を出してもらいたい。

また、会議に先立ち、丸子警察署から長野県警察の組織再編整備計画についての説明があるので、ご意見等あれば、お出しいただきたい。

3 センター長あいさつ

(宮下センター長)全国的に新型インフルエンザや景気の悪化が大きな問題になっている。国の緊急経済対策として、市では約9億円の補正予算を早い時期に市議会へ提案する予定。定額給付金も今月中に約9割は支給になると思う。また、商工会ではプレミアム商品券の発行などが予定されており、一日も早く景気が回復するよう願っている。

4 長野県警察組織再編整備計画(案)について(丸子警察署 山田次長)

【質疑・意見】

(会長)せっかくの機会なので、ご質問やご意見があればお願いしたい。

(委員)丸子署が上田署に統合されてしまうということだが、大型交番と警察署では異なると思う。頼れるものが遠くに行ってしまうことに不安を感じる。地域に根ざした決め細やかな活動をしてほしい。

(丸子署次長)組織が再編され管轄が広がることで、今まで管轄外でできなかった警察官の協力体制も強化できる。

(委員)JT跡地に上田署が移転するようだが、今の位置よりは上田市中心部に近づくが、地域によっては遠くなってしまうところもある。上田署の移転先については充分検討されたのか。

(丸子署次長)移転先については、長野県警の方で検討を進めている。

(委員)警察ははっきりと管轄が分かっているが、管轄を超えた協力体制も必要ではないか。場所によっては、隣の所轄の警察署のほうが近いところもある。

(丸子署次長)ご意見として聞いておく。

(会長)現在、県民の皆さんからの意見を募集しているそうなので、何かあればそちらへ出していただきたい。

5 協議事項

・武石地域の課題について

(会長)今日は、前回の地域協議会で委員の皆さんからお出しいただいた意見等について、ひとつずつ各担当課長からご説明いただく。

(地域振興課長)「地域協議会のあり方について」は、条例で「地域の重要事項の決定に市民の意見や要望を反映させるために設置する」と定められている。具体的には、新市建設計画や総合計画について、重要な公共施設の設置や廃止、基金の活用などの協議を行ってもらうが、その他にも市長に対し意見を述べること、まちづくりについて調査研究を行うことも協議会の大切な機能である。委員の皆さんの自主的な活動や、行政と協議会の協働による活動の展開が望まれている。

(委員)私は、今の地域協議会はガス抜きのお会だと思っている。地域協議会は、合併後の住民の不安を解消するための会だと考えているが、本来の目的を果たしていないのではないかと。ガス抜きの会にならないよう、市へ意見を述べたりして、委員の意見を市政に反映させてほしい。

(会長)これは難しい問題だと思っている。私は、地域協議会は市の諮問機関であると考えている。市に意見を述べるのであれば、一人ひとりが常に問題意識を持ち、具体的な意見を述べていただきたい。それが地域協議会の意見としてまとめれば、市長に意見書として提出すればよい。委員が意識を変え、取り組まなければいけない。

(委員)我々にもいろいろ要望があるので、出す機会を設けていただきたい。例えば、予算を要求する前に地域協議会の要望を反映してもらえようようにしてもらいたい。

(センター長)予算に関しては、昨年からそのような形で行い、意見をうかがっている。

(地域振興課長)地域協議会の意見が反映されていないと言われるが、市へ意見書を提出した「地域自治センターだよりの発行」や「児童館の建設」については、すべて予算化され実施されている。

(会長)意見はどんどん出していただきたい。黙っていたのでは、この会はよくなる。どんな意見でも出していただき、理解を深めてもらえばよいと思う。

(地域振興課長)「地域協議会で市全体のことを協議したり、全協議会委員が集まったりする場がほしい」とのことだが、地域協議会は対象地域の重要案件を協議することを目的としている。市全体を対象にした協議事項がある場合は、地域協議会正副会長会で対応している。

(委員)市全体で考えなければいけないこともあると思う。全員が集まり協議することが年1回くらいあってもよいと思う。

(委員)9地域協議会の活動に温度差があるようなので、それぞれの活動内容を知る場があればよいと思う。

(センター長)全協議会180人が会し、協議を行うのは現実的には難しい。各地域協議会の活動を知る場については、正副会長会で行っている。

(委員)委員全員による協議は無理だと思うので、分科会方式で各協議会から少人数が集まり、テーマに基づいて協議する場があってもよいのではないかと。

(センター長)分科会に分かれ、全市の課題を討議するようなことも考えられる。

(地域振興課長)「わがまち魅力アップ応援事業で出席した人に対しお茶代程度出してほしい」とのことだが、人集めに対する苦勞は推察されるが、この補助事業はまちづくり事業に対する補助であり、手弁当で行うことを原則としているため、個人の労力や食糧費に対する支出は対象外である。住民どうしの親睦を図ることを目的としている「地域ふれあい事業」や「分館事業」は食糧費も対象になるので、両事業をうまく活用し実施していただきたい。

(委員)この補助事業では、行政が整備を進めれば多額の費用がかかるような環境整備事業が多いと思う。自治会が少ない事業費で、手弁当で努力していることを考慮していただきたい。

(地域振興課長) 「わがまち魅力アップ応援事業を続けてほしい」とのことだが、明言はされていないが、なるべく多くの自治会にやっていただきたいという思いもあるので最低 10年は継続したいとしている。

(委員) 私の自治会でも今年から事業に取り組んでいるが、今年度実施する事業には「上田市発足 3周年記念事業」と入れるようにと書かれていた。この補助事業が記念事業で終わってしまうのかという不安があった。ぜひ続けていただきたい。

(地域振興課長) 「武石地域の将来に不安を感じる。武石をどう発展させたらよいのか。地域のあり方について勉強会をしたらどうか」とのことだが、地域の将来のあり方は、地域の中心にいる住民自身が考えていく必要がある。地域づくりのヒントを得るための学習会等は、希望があれば行うことはできる。

(委員) 若い世代の人よりも高齢者の皆さんが武石地域の 1Q 20年後に不安を感じているようだ。地域づくりのヒントを与えてくれるような方から話を聞き、勉強会等を行いたい。

(会長) 上田市が繁栄していくためには、地域のコミュニティが重要ではないか。地域のコミュニティのために具体的にこうしてほしいという意見があれば、出していきたい。

(委員) 地域の将来のためには、やはり子どもたちが安心して育っていける地域づくりが必要ではないか。例えば、自治会に子どもたちが遊べるよう公園をつくるなど。

(委員) まずは、子どもを産まれるような環境にしていかななくてはいけないのではないかと。前回の協議会でも出生者数が少ないという意見が出ていた。産める環境が整わなければ、子どもも増えていかない。

(宮下センター長) 子どもを産める環境については全国的な課題になっており、特に上田は産む施設も少ない。個人的には子どもに対していちばんお金がかかるのは教育費だと思っている。前回の協議会で医療費の無料化の意見が出たが、医療費よりも教育費をバックアップする方法を考えた方がよいのではないかと。ただし、それには莫大な予算が必要になってしまうが。

(委員) 医療費を無料化することで、子育て世代の人たちの定住につながるのではないかと。

(委員) 子どもの問題については、当事者である若い世代の人たちに意見を聞かなければ真意はわからない。若い人たちの意見を聞いたうえで、改めて協議したほうがよいと思う。

(会長) この問題については、改めて機会を設けたい。地域の方と交流があるときにはご意見を聞いていただき、生の声を反映させていただきたいと思う。

(地域振興課長) 「合併して 3年経過したが、どこが分権なのかわからない。地域独自の考えが通るよう、センター長がある程度権限を持ってほしい」との意見について。

(宮下センター長) 地域内分権には、地域の特性を生かした地域づくりをしていくことが必要ではないかと思う。地域協議会は、まちづくりについて調査研究する役割も担っている。行政から一方的に何かを進めるのではなく、地域の課題について地域の皆さん方と一緒に取り組んでいくことが、地域内分権の形ではないかと考えている。合併し、ひとつの市になった中で武石地域だけ突出して何かをやるのは難しいが、それをいかに地域に合った形にしていくかは考えていかなければいけない。

(委員) 地域の独自性 = 地域の魅力につながっていくと思う。地域自治センターに権限を持たせることが、分権型合併の最終的な形ではないか。例えば、(社)武石開発公社の基金の使い道について、地域のためにお金を使える方法をセンター長が市長や副市長に提案できるような権限をもってほしい。トップダウンのままでは、分権型合併にはなっていないのではないかと。

(宮下センター長) (社)武石開発公社は行政とは異なる組織なので、センター長という立場では何も言えない。しかし、基金の使い道については(社)武石開発公社で考えるよう、理事長である副市長から言われており、検討を始める準備をしている。ただし、最終的には理事長の判断になるので、地域の要望が通らない場合も考えられる。

(委員) たまたま(社)武石開発公社のことを例に出したが、地域予算についても同じように、武石地域の要望が理事者側で返されるということが出てくる。そこを改革していかないと分権型にはならないのではないかと。

(宮下センター長) 地域予算の関係で、昨年度意見書を提出していただいた「激変緩和措置」については、要望したとおり予算に反映されている。

(委員)理事者に要望していけるのは、やはり部長であるセンター長しかいない。武石からの提案をセンター長が理事者にしっかり伝えていただきたい。

(宮下センター長)具体的な問題を出していただければ、要望していくことはできる。

(委員)昨年のもちづくり懇談会のときに、持ち寄り基金の活用期限についてたずねたところ、センター長は「永遠に使える」と答えていた。しかし、議会の中では27年度までという話も出ていていると聞く。

(宮下センター長)現時点で活用期限は決まっていないが、ひとつの目安として合併10年目となる27年度までに使い切ってもらいたいという考えは、あちこちで出てきている。地域予算を有効に使いたいということで具体的な内容で地域協議会から要望していただければ、当然やっていかなければいけないと思っている。

(委員)活用期限を決めてもらえれば、次の協議会へもつなげられる。広く意見を聞いて、有効に使ってもらいたい。

(委員)会長あいさつの中で、持ち寄り基金の使い道を年度内に出してくれという要請が来ているという話があったので、それに沿って話を進めればよい。今ここで論議することではない。

(委員)持ち寄り基金を使った事業も市の一般会計を通るので、私たちの思うような事業に使ってもらえない。御柱祭の補助金など地域のために有効に使いたいと思って出した要望も、理事者がだめだと言えば持ち寄り基金は使えない。持ち寄り基金の使い道には、地域協議会の意見を反映させてほしい。

(宮下センター長)今まで地域協議会から出された意見で、市長がだめだと言ったものはないと思う。御柱祭については、宗教的な部分や食糧費を除いた費用が補助金としてきちんと予算づけされている。

(会長)今日は時間になったので、続きは次回協議会でお願いしたい。いずれにしても、行政に提案を考えてもらうのではなく、委員自身が具体的に考えていかなければいけないと思う。

6 その他

(会長)その他で、委員から何か意見等はあるか。

(委員)明日、(社)武石開発公社の理事会が開催される。私も理事を務めているが、(社)武石開発公社の基金についても大きな問題であるし、雲溪荘と番所ヶ原スキー場を今度どうしていくべきか大きな課題になっている。武石地域の大切な施設として継続していくべきかどうか、周囲の方の意見を聞いたり、委員の皆さんにもぜひ考えていただきたい。

(委員)前回出した「旧農産加工所について」だが、取り壊しの話があるのは農産加工所ではなくて生活改善グループで薪や釜を置かせていただいている塩蔵庫部分である。そこは、建物がJA、土地が市所有になっているが、合併後に土地の賃借料が上がってしまったため、JAでその建物を取り壊したいという話が出ている。

(地域振興課長)土地の賃借料について、合併前は特に基準がなかったが、市になってからは評価額の6%を賃借料にすると決まっている。JAに市で貸している土地については、宅地評価のため賃借料が30万円ほどになる。合併前と比べて急激に上がる場合には、段階的に上げるようになっている。生活改善グループの皆さんが、地域の産業振興のために今後も活動していくとしたら、担当課を通して相談していただければ減免等ができるので、まずは市へご相談いただきたい。

(委員)自治基本条例検討委員会の内容を少しお伝えしたい。自治基本条例については、皆さんにもこれから広めていっていただきたいが、次のことを参考に説明していただければと思う。「自治とは、以前は『自ずから治まる』という受動的な意味で使われていたが、現在は『自ら治める』という能動的な意味になってきている。では、『自ら治めるためにどうしたらよいのか』という手法を文書化したものが自治基本条例である。」わかりやすい説明だと思うので、皆さんも聞かれた際には、答えに使っていただければと思う。自治基本条例検討委員会では、現在、市のさまざまな問題を掘り起こして、自治基本条例に盛り込んでいこうと検討を進めている。11月ごろを目安にタウンミーティングを計画しているので、皆さんには積極的に参加していただきたい。

7 閉会(小山副会長)

(副会長)以上で第2回武石地域協議会を閉会する。本日は会長や委員の話を聞き、多くの宿題をもらった。これからの地域や雲溪荘などの施設について、自分なりにいろいろと考えていかなければいけないと思った。皆さんにも、考えを持って次回協議会に望んでいただければと思うので、よろしくをお願いしたい。